



劇場公開に先駆けて、金沢で特別上映決定！

タイトル	荒川修作の作品を舞台にしたドキュメンタリー映画 特別上映「死なない子供たち」(英題:Children Who Won't Die.)
作品概要	出演:荒川修作、佐治晴夫、天命反転住宅居住者ほか 監督:山岡信貴 音楽:渋谷慶一郎 ナレーション:浅野忠信 製作:ABRF,Inc. 制作:リタピクチャル 2010年/日本/カラー/80分 公式ホームページ: http://www.shinanai-kodomo.com
日時	2010年8月31日(火) <2回上映> 開演14:00~(プレトーク)/14:30~(映画上映) 開演18:30~(プレトーク)/19:00~(映画上映) ※開場は開演の30分前。上映時間は約80分。
会場	金沢21世紀美術館 シアター21
料金	各回¥500 (全席自由)
チケット取扱	当日、開演の1時間前より会場にて販売
主催	金沢21世紀美術館[(財)金沢芸術創造財団]
協力	株式会社ABRF
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL 076-220-2811(交流課)

本資料に関する
お問い合わせ

金沢21世紀美術館 広報担当/黒田 事業担当/近藤、中山
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814(広報室) FAX 076-220-2806
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp



作品概要



photo by ABRF, Inc.



*

「人間は死なない」と断言した男と、 「死なない家」に住んだ人々の生命の記録

この映画は、今年5月に73歳で亡くなった美術家荒川修作の建築作品『三鷹天命反転住宅』の居住者の記録を中心とするドキュメンタリー映画である。自らも同住宅の居住者である映画監督山岡信貴氏が、ここで生まれ育った自らの子供二人の記録映像やその他居住者の証言、宇宙物理学者の佐治晴夫のインタビュー、そして荒川修作の貴重な記録映像を元に制作しました。

1960年代、芸術家として衝撃的に出現した荒川修作。2005年、荒川が東京都三鷹市に建てた『三鷹天命反転住宅』。ここに住むと身体の内潜在能力が引き出され、人間は死ななくなると言う。常識では理解しがたい発言を繰り返す荒川修作の言葉から浮かび上がってくる、人類がこれまで出会ったことのない衝撃の生命論。そして住人たちに起こり始めたある変化とは。果たして、人間の歴史は本当にここから変わろうとしているのか？監督はジャンルを超越した特異な映像世界で海外映画祭の評価も高い山岡信貴。音楽は先鋭的な電子音響作品で音楽そのものに革新をもたらしている渋谷慶一郎。さらにナレーションは日本映画を代表する俳優である浅野忠信が担当。初期の棺桶シリーズから代表作『意味のメカニズム』、そして数千人の乳幼児の研究の成果をつぎ込んで作り上げた『養老天命反転地』を経て、アートや建築といった従来のカテゴリーでは分類不可能な大規模な都市計画に至る荒川修作の活動をたどることで、人間の可能性と未来を信じる者へのメッセージが明らかにされる。

当館での上映経緯

『死なない子供たち』は荒川の訃報の直後の6月11日に完成。同日実施された京都工芸繊維大学でのプレミア上映会、7月17日、18日の三鷹天命反転住宅での特別上映会につづき、一般劇場公開に先駆けて当美術館での特別上映会の運びとなりました。今まさにその活動の意義が見直され、注目されている荒川修作にタイムリーに焦点をあて、そのコンセプトを伝える貴重なドキュメンタリーフィルムです。さらに、『養老天命反転地』において約10年間学芸員を務めた当館平林学芸員がプレトークを行うことで、その深遠な概念をひとく一助とします。

監督プロフィール

山岡 信貴 Nobutaka Yamaoka

1993年に初の長編映画「PICKLED PUNK」を演出。同作品はベルリン映画祭ほか多数の映画祭に招待上映され、以後もすべての製作作業をひとりで行なうスタイルを貫きながら定期的に作品を発表し続けている。

キャスト

荒川 修作 Shusaku Arakawa

1936年愛知県生まれ。1961年渡米、翌年よりパートナーである詩人マドリン・ギンズとともに、ニューヨークを拠点に活動を開始。以来既存の「死」の概念を覆す研究・実験・制作を続けてきた。1990年代以降は、「天命反転」をキーワードに建築を通じた実験に着手し、94年「遍在の場・奈義の龍安寺・建築する身体」(岡山県奈義町現代美術館)、95年「養老天命反転地」(岐阜県養老町)、2005年「三鷹天命反転住宅～In Memory of Helen Keller～」(東京都三鷹市)、08年「バイオスクリープ・ハウス」(ニューヨーク、イースト・ハンプトン)などを建設。近年は自らをコーディネジスト(芸術・哲学・科学を統合し実践する者の意)と称し、建築や都市規模のプロジェクトなど通常的美術の範疇にとどまらない独創的な活動を展開していた。初期作品を集めた「死なないための葬送」展開催(大阪・国立国際美術館)のため、再評価が高まっている今年2010年5月、73歳で死去。近著に『建築する身体～人間を越えていくために～』(春秋社)、『死ぬのは法律違反です』(春秋社)など。

荒川修作+マドリン・ギンズ ARCHITECTURAL BODY <http://www.architectural-body.com/ja/>

山岡 遊真・想乃 Yuma Yamaoka & Sono Yamaoka

「死なない家」で育った兄とそこで産まれた妹(天命反転ネイティブ)

佐治 晴夫 Haruo Saji

宇宙物理学者。無からの宇宙創生の理論やアメリカ航空宇宙局(NASA)によるボイジャー計画において、ゴールデンレコードにバッハのプレリュードの収録を提案したことで知られる。

天命反転住宅の住人たち Resident of Reversible Destiny Lofts MITAKA

「人は死なない」と断言した男が作った三鷹天命反転住宅の住人たち。あるものはそこに留まり、あるものは移住し、それぞれの生活を続けている。

* 映画『死なない子供たち』より



*

荒川 修作



*

山岡 遊真・想乃



*

佐治 晴夫



*

天命反転住宅の住人たち

※チラシ、web (<http://www.kanazawa21.jp/>) も併せてご覧下さい。

※上記プログラムについて、貴媒体にて広く掲載・周知いただきますようよろしくお願い申し上げます。

※写真をご希望の場合や当日のインタビュー及び取材をご希望の方は、広報室までお申し付けください。お待ちしております。